

寛永諸家譜

醫者
八卷之内

181

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186	(179)	
函號	特	76	1



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007. TM: Kodak





玄治

玄塚

道安

玄昌

玄竹

道隆

道有

寛永諸家系圖傳

橘姓

是也

天正年中上京乱の時家譜焼失と
先祖より世々京師に居り

系純

寛清

玄作

浅草文庫

幼年より儒書醫籍と号し十六歳
少く延寿院の庫下より入六年と
魚之私宅よりかへり世より延寿院
寄進店を由てて我と字寮り
飛心ゆ遠を此学院より移す
けんりてかてて辞してててて
学舎より自心して醫書と梅侯
業術配劑等諸徒とてへて
時り二十に歳

以年書格とゆられ自寮となり
生徒り教授と係と九年とて
當流の元祖道三字の溪醫道の家督
なりて道三乃號と延寿院とて
あふ延寿院譯の玄辨別号の東井
一溪の院号の御年竹庵号の智迪寺院
号と通線守柘とゆり庵号と道三
此名と延寿院よりあふ延寿乃院
号のこ後此 勅許たりとれ

我学徒と云はるる者も亦く延壽院より延壽の庵号と授くこと延壽院別号東井の記あり一漢の石地と云ふも亦自ら自筆なりけ記と事附延壽院と延壽庵の号と記の文は心と延壽の儀ありに云々東井乃延壽の記文あり後延壽院醫道乃奥儀導道より傳來送表し書等と云

是と云ふは延壽院の記文あり且延壽院三日奉祀類をい述他の記書も亦く亦く附屬し醫と延壽の門と云ふも亦百餘人奥儀し書と傳りまの一人あり
元和七年法眼り叙し時三十二歳
同九年

將軍家と云く御之為れと云く我系
あり
還御乃時

伏奉と

寛永二年

將軍家日光山らふやまよりやま御社系いけがねの時とき

伏奉御旅亭ふせまよりいり御茶とい御痛いあり

此の時こゝろ家いえよりい御茶とい御いあり

御杖いあり

同日ごよりい御番紙いあり

此れよりい御い御いあり

十日いよりい御いあり

同五年

名徳院殿の御命いとい御いあり

又叙いとい御いあり

同年院号い此い御許いとい御いあり

改い

同十年

將軍家御不例いの時い法醫い技いあり

御茶い御い御いあり

餘い白銀い御いあり

同十三年朝鮮國使白禁東溟
靑丘三人系府此とき京師より
往還あり度三使より對揚し累日華
族詩章書あり珍味食くしとふ
病論茶中等着干使の情し
しりく書志くられ成行りつと
并答れ文敷通あり時り京洛は
不月代板倉周防守重宗感悦し
救通の文并詩章筆淡書とるん

集く三卷こち装演よく之被伏
あつち せん ころも なる 戒師茶と
あつち せん ころも なる 戒師茶と
あつち せん ころも なる 戒師茶と

同十四年

將軍家御不例のとき諸醫療養を

くまふといへばもなるなる戒師茶と
進献して御平後あり由廢養として
依地干石とるるもなる後時し
ゆいぬ立の者たれと奉りしといく
擬儀しとるるもなる後時し

仙

同十六年法眼ハツメ叙ノしと水ミヅきり
二十二歳叙ノ中御茶ナカミチ下御番シモミ紙シ
法ハフ心シン時トキ台ダイ教キョウと相アイとト
身ミ中御脈ナカミチノイと珍ウツクシ系ケイ上ウエ意イ度タクに

まこと父フ兄ケイと相アイ行ユクく醫イ家カ此コノ事コト通ツウ

家カ乃ノ級キウ橋ハシ乃ノ丸マル

● 菜 な

野間 のま

長栄 ながえい

菜 な

右兴清 うりきよ

三好家より信久と播磨小清水に
城ともいふ

某

左名
三好長安より信久と池田丹後守
多羅尾常隆と同一く家老とす
是と長江三人府と稱す

某

鶴鷹と稱す
秀吉より信久

某

左馬介 和州多門山城ともいふ
松永久秀が養子とす信久は松永
稱す

某

左衛門少尉 信長家安

京平

京都より任長と

玄琢

秀昌院

法平

父京平延秀院玄翔と交り友なり
弱年より玄翔乃門に入り入と醫業と
学ぶ十六歳のとき玄翔命を乞ふ

醫經と傳せし明年玄翔が傳し
不の書格と授けしに銘志と記

とせり

文長十三年十一月十二日法橋り叙

とされしり志をく 禁振と傳し

御業と執して天恩と仰めり

元和三年法眼り叙と

同六年 勅志と秀昌院の号と許さる

同九年同八月十二日法平り叙と

寛永三年

台徳院教御下海の時七月朔日二系此

城よりいよくお湯し〜〜〜

時よ 約命とつけし海より江府よ

ふりて

將軍家御下海の時奉と勅還 御乃

こきいせし〜〜〜後

備より〜江府より系勅と

台徳院教日光山御社系と〜〜

の時〜〜〜

日又年回存

將軍家御病癒の時御脈と診し

教中〜〜〜

同十三年 東福門院御病癒家子

あり〜時〜御茶と飲〜〜

りり〜貴〜〜〜

香合た〜び〜〜

男三竹〜〜〜

同十二年

將軍家御不例の時諸大醫と曰く

殿中へ侍と云れども叙^と父^と喪あり

て退^き明年御^い賜^はる^まり^り御^き返^らし

御^ま令^さに^より^て 東^{ひがし}福^{とく}門^{もん}院^{いん}へ^い候^まり

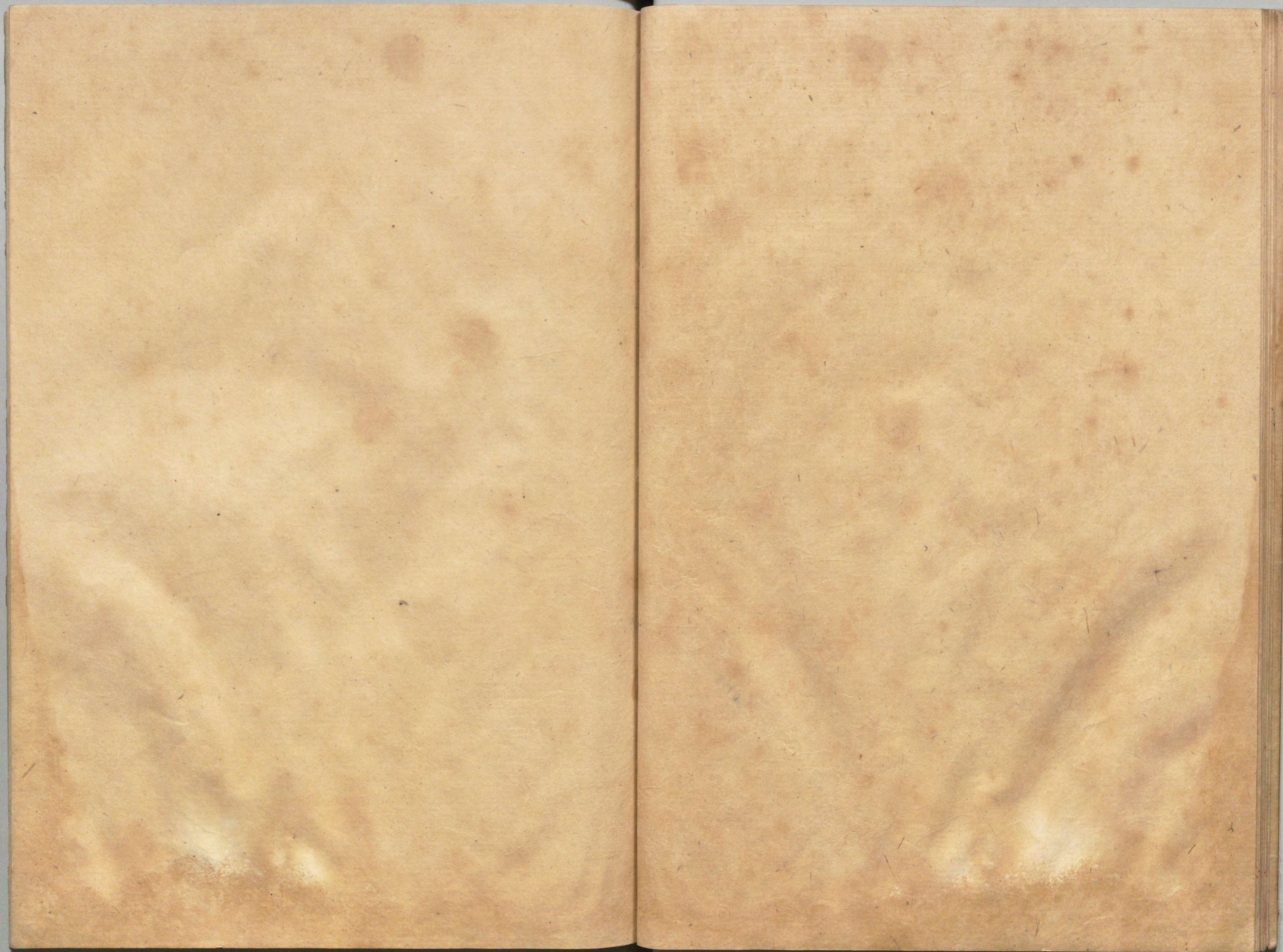
三竹

寛永十三年乙月十二日^{おろけり}法橋^{ほっけう}へ^な叙^ぎ

同十五年十二月十九日^{おろせん}法服^{ほっふく}へ^な叙^ぎ

安節

家^{この}紋^{えん}丸^{まる}の^の内^{うち}裏^{うら}荷^が 式^{しき}の^の步^{あゆ}遠^{とほ}登^{のぼ}形^{かたち}



清和天皇七代

● 義光

清和源氏

武田

新羅三郎

刑部少輔

乃直方が女

大治二年十月廿日 卒

甲斐守

後又佐上

母は上野守

左近衛

義清よしかよ

逸見冠者ついでのくわんぶ

刑部三郎かきふぶ

清光きよみつ

逸見黒源左ついでのくろげんざ

信義よしかぎ

長田右郎ながのたのぶ

駿河守すまのまも

治承四年源頼朝しげのよりのちか 伴重國いづのくは といひ
信義よしかぎ といひ 起し時おこしとき 信義よしかぎ 甲州ふまろ
ありて一族いっしゆ おとこあましく 興おこ といひ
平氏へいぢ 此後こゝち 黨たう といひ 富士川ふじがは といひ
對陣たいじん のとき 信義よしかぎ 謀まう といひ
表あは といひ 義よしかぎ の 平氏へいぢ あましく 滅めつ
といひ 敗少くさい といひ 乞ね といひ 軍ぐん 功こう
といひ 駿河すまの の 守まも 渡わた 藏くら といひ 補おぎな せらる
文治二年三月九日ぶんぢにねんさんがつくにち 卒あつ

依光

五郎 伴沢五郎 伴五右衛門 くらふの

達者

兼久三年五月依光東山道の大將
とちりて関東の征軍とたゞく
らふ一五萬餘乃先鋒とちり尾列
大井戸川と渡り京都の若お裁い
敵遂り敷少と

依政

同年軍功と賞して女藝園乃守後
職補せらる

小五郎 伴五右衛門 治部少輔 くら馬の
達者

依時

五郎次郎 伴五右衛門 治部少輔

ら馬の達者

時總

六郎

伴五守

彈正少將

信宗

孫六

伴五守

安藝守護

とびとびと安藝國と欲知と

信武

孫六

兵庫以

甲斐守

伴五守

陸奥守

將軍守氏一居とて成功あり

安藝甲斐安比守護職と益取

九列乃探題一補せらる武田氏の

中興より

康永元年天龍寺伏見れとも徳共

とかりて高氏乃先驅り列と
延文三年正月日村駿一
依奉院と号し一と後卒と八福寺
と号しと

氏信

兵庫助

刑部左輔

甲州守後

直信

官昂

右馬助

弾正少弼

安藝守後

九州乃押とあり

とありて左巴とありと割養此副級

とあり甲州乃武田と畧同とありたんが

をあるあり

信武直信の高氏義詮の母乃今あり

友原公定の編とあり西の大系圖を

直信より終り友より直信より以後

とあれとめんがふれ取を今按とあり

高氏義詮のときより天正

文禄一いつりもて之間二百餘年
少く直儀より志もはる儀治
及ぶも終り三三代たり世系
中絶のさめいなきいあしどこ
こども志づく家傳の説も志づ
の

信總

伴直志 大馬次

信賢

治部少輔 大膳大夫 隆奥守
安藝守護
室所お軍に勅氣とわいゆり義州
とわく縁外へ赴きぬらび甲州
守

信光

依前寺

吉部少輔

豫州へ任して和奇とありし

信光

依理

豫州へ任して河野公昂 通直

房と通直と毛利輝元との婚姻と

じよふを後れ大友毛利と好む通直
薩州の共々を後とせむ故り
通直信光と共々をいふを後
よけり大友と救ふ仙石越前
秀吉に命とけり大友が加勢ありて
豊後へついで薩州の共々ありて
仙石利とていふていふてありし
信光の道と監護して仙石ありて
事と均しり是れより毛利とて

し秀吉と和睦し是よりいふと秀吉
小早川隆景より一縁川と云ふ
じつりつと通車縁川と云ふ
小早川と云ふ通車病ふ
あとも馬の湯湯に浴し通車
竹原と云ふ花と信治と云ふ
縁川と云ふ海と云ふ仙石と云ふ
しはるんと云ふ仙石と云ふ
うかつと云ふ事と云ふ

まことと云ふ減人
秀吉と云ふ徳と云ふ家
山と云ふ道と云ふ書子
竹原と云ふ町と云ふ長
縁川と云ふ下向と云ふ時
し是と云ふ信雄と云ふ方
と云ふ秀吉と云ふ徳と云ふ信治
判發と云ふやと云ふ花と云ふ
あれと云ふゆと云ふり

海に任治されしおろそびて扶助と
かき始り遂に死す

信重

判發して道安と号し法眼
くく只建仁も此永雄長老と号す此
書と心雄七老の若狭武田氏族
少く同姓のより之ありて人たりと後
醫と業水くく海にありて

淡野幸長より福して紀州に往來
しる幸十年と此百悞富子幸長
此まのみきく恋とく志とく紀州
し此時より道安のれと師として
儒風と同書に書に海説とく幸長
卒して此ら道安京より海に志と
悞富くゆみそく学問とく幸
いし易の乾坤等の教卦ありし
繫辭等の國風乃初篇書の堯典舜典

とび老子全豹莊子内篇棠陰比事
祥刑要覽等其海況道安ふんれと
あらしきくは怪富人のりりり
慈して大明林北恩が鹿淡と淡と
そ能くあつたい和洛とあつた大孝
抄とあつた逐鹿祥とあつた道安と
あつた草書やあつた點竄してあつたを
授く

元和九年五月廿七日延后其養よ

らして法眼り叙し是あつた氣
肉あつた御脈と診しあつた地なり
望右后御ふ縁の時もあつたあつた御
茶と献く

寛永八年九月十八日

台徳院教の御不例よあつたあつた
望しあつた望年京りあつた

同九年十一月廿八日

將軍家御ふ縁りあつたあつたにあつた

寛永十八年
仙洞の沖不為ふよしりて沖脈と診しんし

信徳のぶとく

利發としかつしりて奇仙おとと号ごうし

信經のぶのり

常刀とらふ

信良のぶら

勝三郎かつさぶらう

利發としかつ

茶安ちやあんと号ごうし

法橋ほふけう

寛永十一年二条北城にじょうきたしろしりて

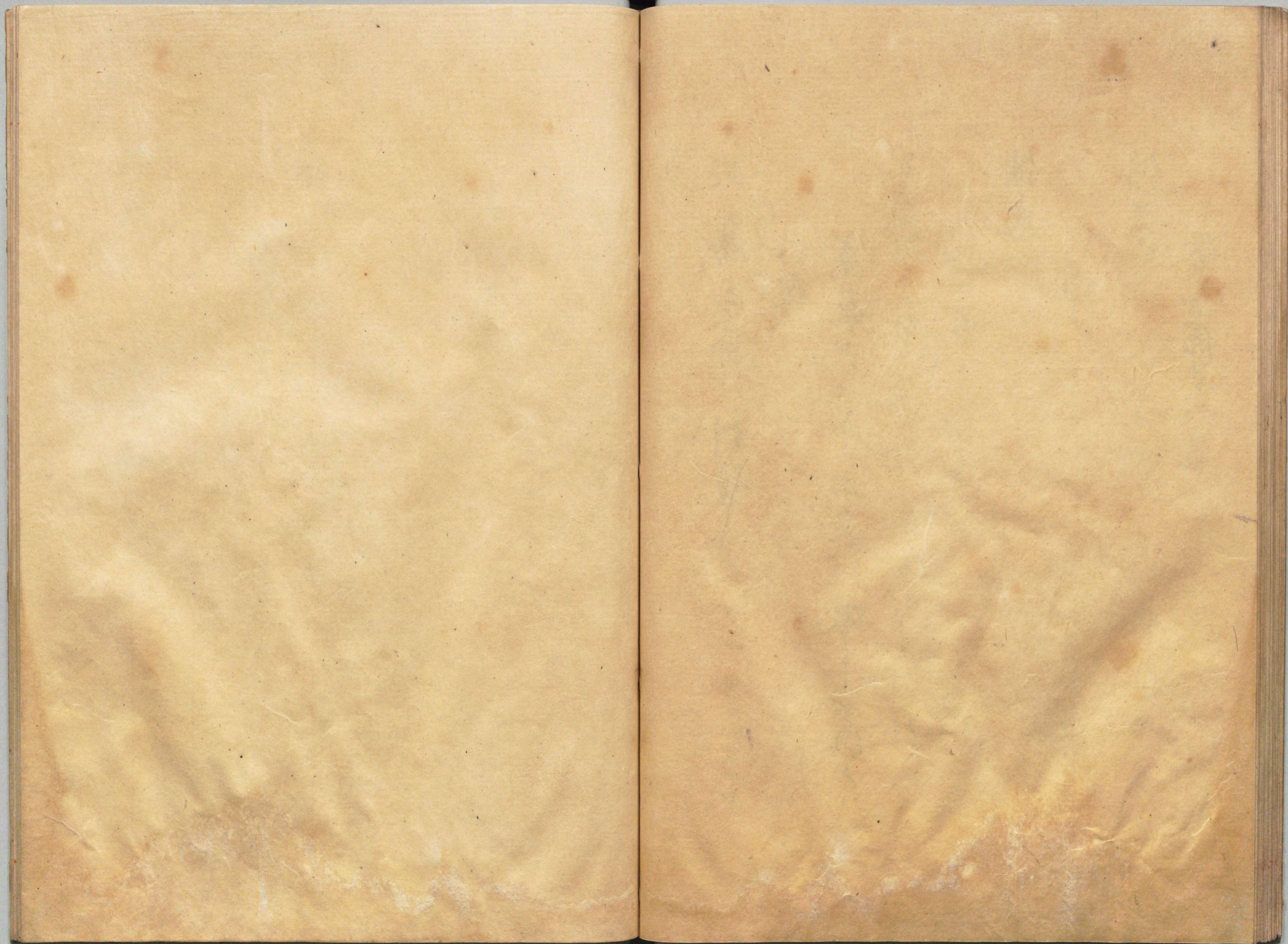
將軍家しやんぐんけに相福あひふくしりて

信成のぶなり

次郎つじらう

信孝のぶたか

勝九郎かつくさう



政義 まさよし

高政 たかまさ

勝政 かつまさ

尾張守 おわりのかみ

清和源氏 きよへいげんじ
留山 るりやま

秋高あきたか

永澄ながすみ

石垣いしがき

祢保ねほ

政度まさつと

播磨守はりまのり

高澄たかすみ

政忠まさただ

泉州吉生みづのよしをにに任にんじじ

元長もとなが

内蔵助くらりのすけ

生國和泉なまくにわいづみ

元澄もとすみ

京表

白一帛 玄昌 法眼 生玉安藝

十七歳より延考院玄翔乃門に入り

醫術を修むるに利便して玄昌と号す

又出庵と号す

二十三歳より毛利輝元をよびて

秀祐といふ

安永十一年正月二十日物より

く法橋より叙し

寛永六年正月二十二日

名法院叙とよび

將軍家よりお誦し

法眼より叙し

同十六日めさす

將軍家よりけしきより法眼と

一茶を献じ

同十八年武州鹿嶋乃日

来地こゝり五百石とあり
おのりおのり

家級この相塔えん端まの遠まの

● 家恒こゑ

奈須なす

戎部少丞えいぶしょうじやう

傳つたへ孫まごと大塔おほいたか乃なほ苗裔なえいたりあり

奈須なす氏うぢよりより出いるる源げん氏うぢ

なり

明應元年十二月九日あきつねのちのち越こ前まへあり

伊と

家之

秀人 生國山城

外科乃醫之なる

法石系園

重恒

与三 生國同家

外科の醫之なる 栲木牧師落馬と

重貞

二席官邸 生國同家

河陽小河より任之く外科の醫之

なる先祖より毎子妻は月夜茂系

乃日葵あひなすつひびりさ葛本くわほんと受う

寛長八年かんちやう江戸えどへいかかむむししきき

名徳院なとくゐん教けうりり瑞ずいししくくままののふふ

とと後ごのの入い流りゅうととにに名な教けうととありあり

寛永かんゑい十じゅう五ご年ねん江戸えどへいかかむむししきき

如に七しち十じゅう四し法ほう石いし久く清せい

玄竹げんちく

生國なまくに同どう家け

弱じやく多たくくもものの中ちゆう江え戸こへへはは任にんしし醫いとと道だう三さん

りり学がく

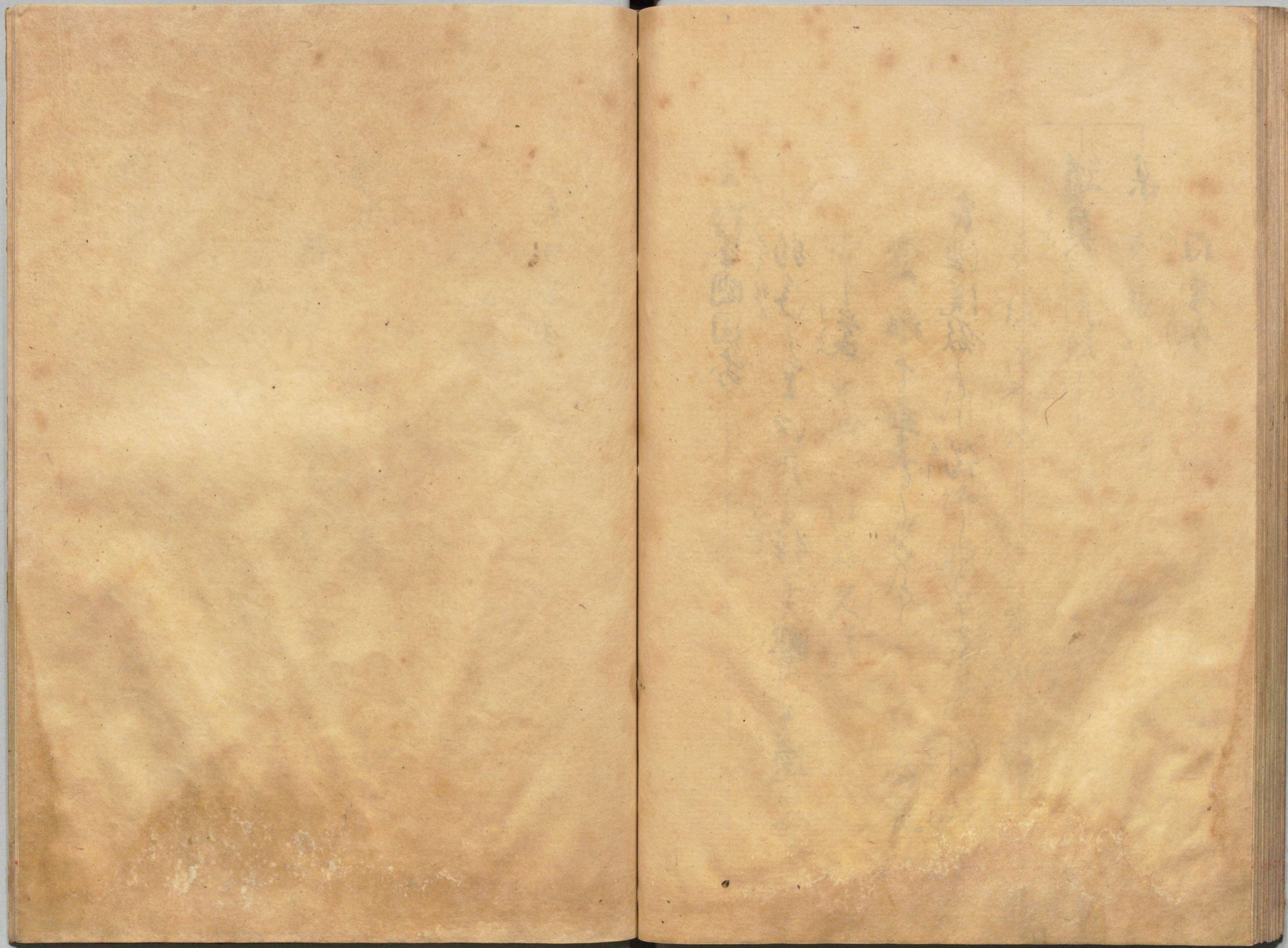
寛永かんゑい十じゅう年ねんとといいふふ

名徳院なとくゐん教けうりり瑞ずいししくくままののふふ

道貞だうてん

某たがひ

内うち務む人ひと



清和源氏
池田

● 頼忠

池田乃祖
頼忠十一代土波頼清が男なり

頼益

持益

持兼もちかね

兼義かねぎ

義政よしかた

政房まさむね

政重まさしげ

重次しげつぐ

池田民部少輔いけだたみんぶのすけ

左衛門尉さゑもんゑ

重光しげみつ

重成しげなり

土佐とさ

伴資ばんすけ

重時しげとき

和泉守いづみのかみ

江州甲斐郡えすうかいぐん

織田信長おだのぶなが入洛にっぽ此こゝともとも江州甲斐えすうかいのの法城ほふじやう

没落ぼつらくとと友とも甲賀かへとと逃にげ去まくく醫師いし

一溪道三いっせいどうさん乃な門かど力ちからののたたりり判はん發はつしし

松庵しょうあんのの号ごうとと

重次

利發とく道隆と号と

父が業と継とく玄鑑法平の門弟と号と

寛永二年

名迹院殿

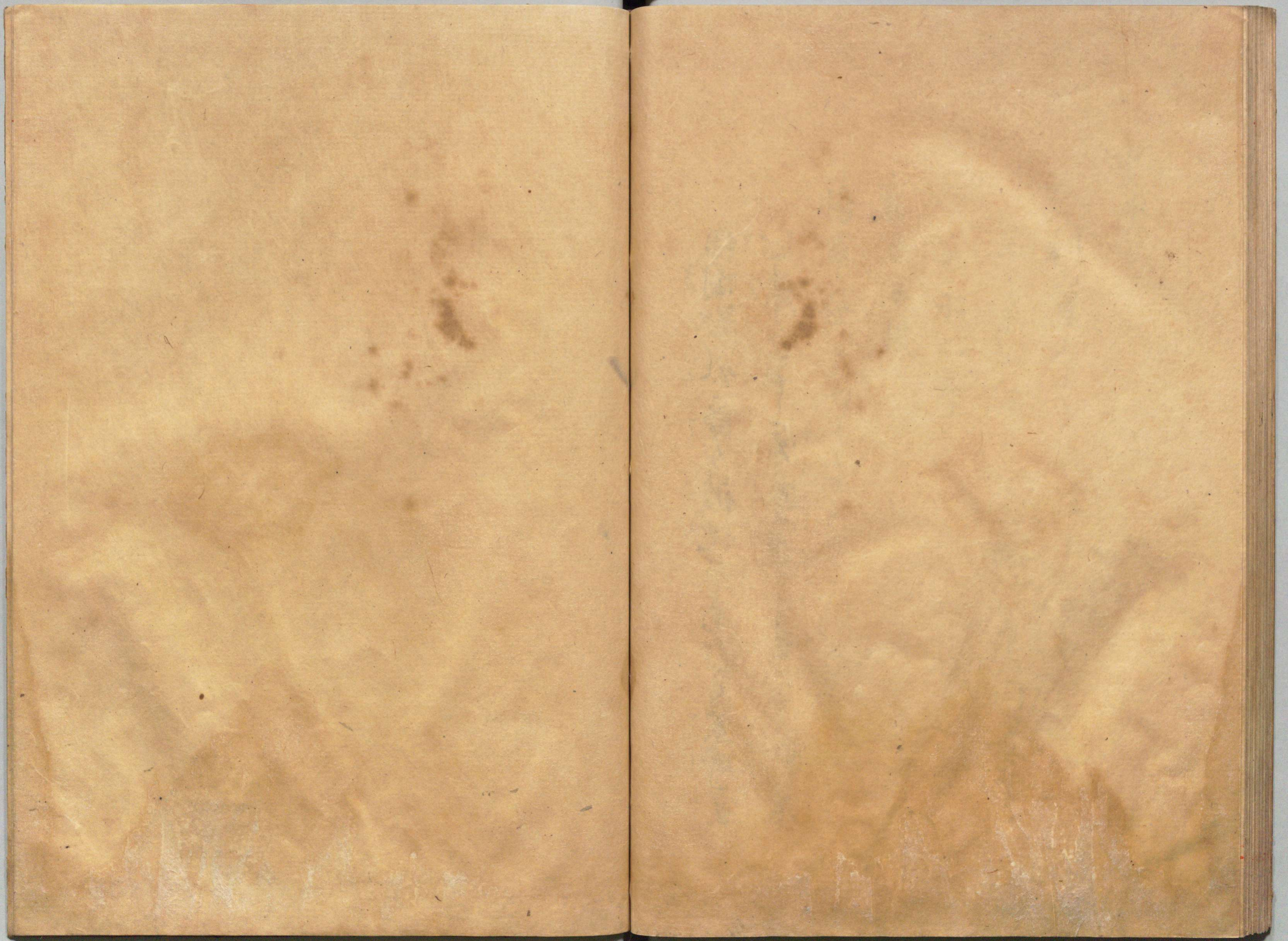
將軍家とありしとくまのふ

同十又年江戸南少りして御茶

園と梅らる時と 納命と象も

の園と承守ら彼地とくといと業師堂

と建立と栄草寺と号と



重貞しげさだ

仲なかつ

家傳けだんよりいへりて後原姓なり

家系けいの射

雲州えんしゅう厚子あきこ伴あまねり馬ま橋はし代しろ乃の長ながなり厚子あきこ
没落ぼつらくののら毛利もうり輝てるええととふ

市光 しげみつ

市右衛門尉

道有 だうゆう

友房と号す ともむらとごうす

醫業と道三龜溪と号す いげふとだうさんきせいとごうす

寛永九年十二月廿八日

將軍家一お獨一をくまらる

貞房 ていむら

父道有所く家督とつご道有と
号す





